

## 産業界との連携協定解析による 大学が強化すべき社会・地域貢献活動の考察

○岡田泰知（北見工業大学 大学院工学研究科 工学専攻 マネジメント工学プログラム）  
内島典子（北見工業大学 社会連携推進センター）  
ウアテイ（北見工業大学 地域マネジメント工学コース）

### 1. はじめに

大学は、1947年の学校教育法制定以降<sup>1)</sup>、学術の中心として教育、研究を担うことがその主たる役割とされてきた。しかし2004年の国立大学の法人化や、2006年の教育基本法改正により、大学の第三の使命として社会貢献が明確に位置づけられた。大学の社会貢献活動は社会連携や地域連携として展開されることが多いと指摘されている<sup>2)</sup>。大学の社会連携・地域連携活動の1つである連携協定は、大学が外部機関からどのような連携活動を期待されているかを読み取る手がかりとなると考える。そこで本研究では、大学の社会連携・地域連携活動の活性化に向け、産業界との連携協定に着目し、協定内容の分析を通じて、大学が今後強化すべき社会・地域貢献活動について検討した。

### 2. 研究方法

本研究では、北見工業大学と帯広畜産大学の2004年度から2023年度までの20年間に、それぞれ締結した産業界との連携協定を対象とした。北見工業大学は北海道北東部のオホーツク地域に位置する工学系の大学である。帯広畜産大学は北海道東部の十勝地域に位置する農畜産系の大学である。各大学が管理する連携協定の情報をもとに、パートナーの所在地、業種、および協定による取り組み内容について分析を行った。

### 3. 結果

北見工業大学と帯広畜産大学の産業界との連携協定は、それぞれ23件、20件であり、パートナー数は34件、21件であった。パートナーの所在別では、両大学とも大学が位置する地域での連携協定が最も多かった。また地域との連携協定では、どちらも地域の主産業である第1次産業との連携協定が行われていることが示された。連携協定パートナーは二大学の専門分野である工学系、農畜産系に関する業種が、全体の6~7割を占めていることが明らかとなった。連携協定パートナーの所在地および業種別に、協定パートナーが専門分野に関連するか、しないかについて整理した結果を図に示す。北見工業大学では、地域及び地域を除く北海道内のパートナーが専門分野に関連する割合が多かった。帯広畜産大学では、地域を除く北海道内および北海道外のパートナーが専門分野に関連する割合が多かった。一方で、両大学ともに専門分野に関連しないパートナーが、それぞれの地域で多いことが示された。

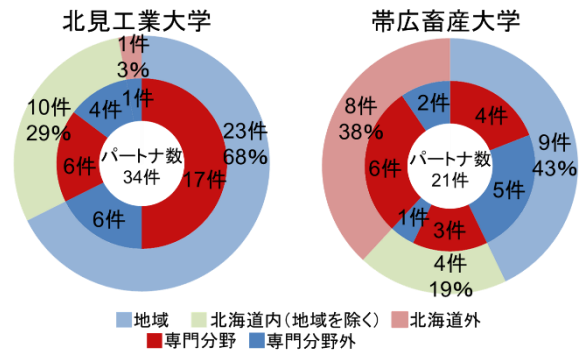


図. 連携協定パートナーの所在地・業種別に関連する専門分野との関係  
(2004~2023年度、20年間)

### 4. 考察

北見工業大学、帯広畜産大学が位置する地域は、どちらも第1次産業を主産業とする地域である。このことから、大学が位置する地域の主産業との連携は大学にとって地域貢献活動を行う上で必要であると考えられる。また、地域においては、専門分野に関連していない業種との連携が比較的多くみられた。地域が大学に期待すると考えられるその役割の範囲は研究支援だけでないことが示唆される。一方、地域外パートナーからも高い割合で専門分野に関連するパートナーとの連携協定が見られたことから、大学の専門分野を活かした連携は地域に留まらず拡大させていくことができると考えられた。以上のことから、大学が社会・地域貢献活動を強化するためには、地域主産業との協働を基盤としつつ、地域外に対しては大学の専門分野を活かした連携の拡大を図ること、そして地域内では専門分野には直接的に関連しない領域の要請にも応える多様な連携スタイルを構築することが重要であるのではないかと考えられた。

#### 【参考文献】

- 1) 文部科学省：「学士課程教育の再構築に向けて（審議経過報告）（案）」学士課程の在り方に関する小委員会（第6回）議事録・配布資料8-1，中央教育審議会大学分科会，(2025/09/18)
- 2) 大藪俊志：「高等教育政策と大学の社会連携・地域連携活動：現状と方向」，佛光大学総合研究所共同研究成果報告論文集，Vol. 10, pp. 11-28, 2023.